

戸田康之さん『だるまさんがころんだ』（10月3日配信）

こんにちは！戸田です。よろしく。

今日は、だるまさんがころんだについてお話しします。

私は、ろう学校の幼稚部で働いています。だるまさんがころんだをご存じですね。聴者が行うと鬼は声で「だるまさんがころんだ」と言い、言い終わると同時に振り向きませよ。そこで動いてしまうと鬼の横に行くという遊びです。では、ろう児の方法はというと、鬼が声で合図を出すのではなく、参加者に見えるように大きい手話で「だるまさんがころんだ」と表現してから振り向きませ。また、数字に見えるように表現する方法もあります。ろう児たちに合った様々な方法があり、だるまさんがころんだは行われます。

先日、初めて見る方法がありました。幼稚部の4歳児がだるまさんがころんだをしている時のことです。屋外ではなく、広めの部屋で遊んでいました。鬼は数字や大きい手話で表現する方法は今までもありましたが、今回は違います。部屋に大きな鏡があります。そこに向かい合うように立ち、鏡越しに参加者の動きを見ているのです。参加者の動きを見ながらここだと思ふタイミングで振り向いていました。参加者も鏡越しに鬼と目が合っています。振り向けば止まります。いつ振り向くかわからない鬼に慎重になりながら進みます。ろう児はだるまさんがころんだでも視線を合わせて行うことができるんですね。鏡を使って視線を合わせる遊び方を考えるなんて、やっぱりろうの子どもたちは目の子どもですね。